

## 御幸橋野草地区（仮称）の整備の考え方

### 第 1 回上流域地域協議会での主な意見

#### ●自然環境の利用について

- ・植生では、河川氾濫性の種であるカワヂシャ、ヤガミスゲ、ミコシガヤが貴重種として挙げられているので、ここを大きく捉えてメリハリをつけてはどうか。
- ・石川河川公園（大阪府）では河川本来の高水敷の姿を残していく「自然ゾーン」という区域がある。自然が好きな人や観察が好きな人の利用は結構あるが、子供たちの利用はそれほどない。
- ・御幸橋周辺は、利用をもう少し考慮した整備を考えた方がよい。

#### ●歴史的な利用のされ方

- ・現在の状態は木を切らなかつたために大きくなったものであり、本来の姿をまず確認する必要がある。
- ・御幸橋の付近は森のようになっているが、昔は砂浜みたいになった水泳場だった。
- ・キャンプがはやった頃はキャンプ場にはどうかという話があった。しかし今はそれほど人気でもない。
- ・歴史的な推移をみると、いろんな利用のされ方があった。カヌー、ラフティングなど、ここを実際に利用する可能性のある方とか、実際に利用されている方、あるいは団体とかグループの意見を聞く方法もある。

#### ●整備の方向性について

- ・八幡市側は何度も浸水しており、かねてより御幸橋野草地区の樹木の伐採を要望している。
- ・水辺まで行けるようなルートを整備を考えていただけたらどうか。

#### ●今後の検討の進め方

- ・今後の御幸橋野草地区の歴史や利用の話を少し丹念に聞いてから検討を進める。



平成 25 年 8 月撮影

0 500m

凡例  
 開園予定区域

### 木津川と河川敷の昔の利用に関する地元ヒアリング結果

- ・昭和 40 年代前半まで、御幸橋の上流側から下流側の科手（しなで）までの木津川河川敷に水泳場があり、夏季には大阪や京都などからの多くの人で賑わっていた。
- ・水泳場があった頃は現在のような樹木はなかった。
- ・水泳場の水際は現在のようなガケではなく、堤防から水辺までなだらかだった。
- ・川の岸边には三角屋根のバンガローが点在していた。
- ・木津川右岸側の河川敷には、子供の背が立たないくらいの水たまりが多くあった。
- ・毎年 4 月 29 日の飛行神社例祭に合わせ、模型飛行機の飛行大会が行われていた。
- ・木津川は砂地で水がきれいで小魚がよく捕れ、地元の子供は毎日泳いでいた。
- ・花火大会があった。
- ・御幸橋の上流にあった「常磐の浜」から、八幡産の竹を筏に組んで大阪へ運んでいた。
- ・さらに上流の「家田の浜」付近で、畑のある川北（木津川の右岸側）へ歩いて渡っていた。
- ・井戸の水は金っ気が多く洗い物が綺麗にならないため、木津川の水で洗濯や野菜の泥落としをしていた。
- ・禁猟になる以前は自由に狩りをしていた。



木津川水泳場(出典: 八幡市ホームページ)

### 新規開園区域の機能(案)

- ①木津川を眺めながら散策ができるルートの確保  
 (水際の河畔林を伐採・除根し、植生管理により背丈の低い帯状の草地を誘導)
- ②水遊びやカヌーの乗降ができる水辺へのアクセス性の確保
- ③駐車スペースの確保